



第168回 鶴見大学図書館貴重書展

「横浜式覧之真景と五雲亭貞秀の横浜絵」

鶴見大学図書館 1 階エントランスホール

2026.7.25 Sat >>> 8.28 Fri

第168回 鶴見大学図書館貴重書展 「横浜式覧之真景と五雲亭貞秀の横浜絵」展示リスト

【Ⅰ】五雲亭貞秀の横浜絵

- *①神奈川港横浜御貿易場大絵図 一玉斎（佐野屋富五郎）画 安政6年（1859）横浜 新栄堂刊
- ②東海道名所之内横浜風景 五雲亭貞秀画 万延元年（1860）刊
- ③御開港横浜之全図 玉蘭斎橋本画 万延元年（1860）江戸 丸屋徳造刊
- ④横浜本町并二港崎町細見全図 五雲亭貞秀画 万延元年（1860）江戸 山本平吉刊
- ⑤横浜本町景 港崎街新廓 五雲亭貞秀画 万延元年（1860）江戸 山本平吉刊
- ⑥横浜土産 玉蘭斎亭貞秀画 万延元年（1860）序 江戸 住吉屋政五郎・岐阜屋精七刊
- ⑦再改横浜風景 五雲亭貞秀画 万延2年（1861）2月／文久元年（1861）6月 江戸 丸屋徳造・同甚八刊
- ⑧横浜開港見聞誌 橋本玉蘭斎 文久元年（1861）／慶応元年（1865） 横浜文庫
- ⑨〈増補再刻〉御開港横浜之全図 玉蘭斎橋本画 〔慶応2年（1866）〕江戸 丸屋徳造刊
- ⑩横浜明細之全図 橋本玉蘭斎画 明治3年（1870）横浜 師岡屋伊兵衛刊
- ⑪横浜式覧之真景 橋本玉蘭斎画（貞秀） 明治4年（1871）横浜 師岡屋伊兵衛刊
- *⑫横浜英吉利西商館繁栄図 一蕙斎（落合）芳幾画 明治4年（1871）東京 萬屋孫兵衛刊
- *⑬横浜吉田橋馬車道之図 歌川広重（三代） 明治4年（1871）東京 辻岡屋文助刊

【Ⅲ】五雲亭貞秀の版本挿絵

- ⑭貧福悟道捷徑（善惡道中記第四編） 一筆菴主人（溪齋英泉）作 嘉永年間（1848～1854）江戸 頂恩堂（本屋又助）刊
- ⑮童子教稚絵解 笠亭仙果作 嘉永5年（1852）江戸 栄久堂（山本平吉）等刊

【Ⅲ】外国人作製の横浜絵

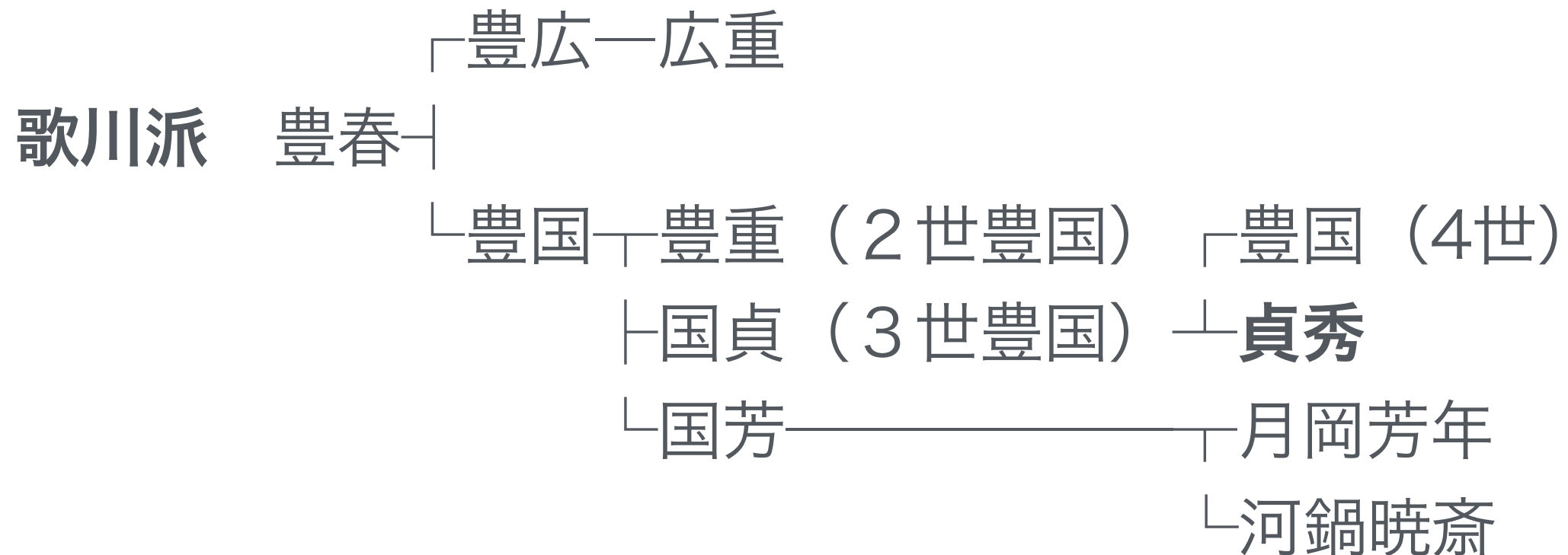
- *⑯Plan of The Settlement of Yokohama, Japan リチャード・ヘンリー・ブラントン（英・1841-1901） 1870年

（＊：貞秀以外の作）

歌川貞秀

文化4年（1807）～明治12年（1879）頃
下総国布佐（現在の千葉県我孫子市）の生まれ
本名：橋本兼次郎 号：五雲亭・玉蘭斎

“空飛ぶ絵師”



吉田暎二編 『浮世絵辞典』

(昭和19年12月・北光書房)

橋本氏、通称兼次郎、名は玉蘭、また玉蘭齋、五雲亭の號あり、歌川国貞（後に二世豊国）の門弟にて、最も出藍の妙手たり、亀井戸天神の前に住み、後に深川安宅町に移る、著す所の書多く、中本の挿絵も又少なからず、

貞秀頗る気概あり、師の国貞が二世豊国と改名せし時、其の門弟もまた之に倣ひて改名せしが、貞秀は其の不倫なるを憤り、依然貞秀と号して改めざりきと云ふ、

※浮世絵の他、黄表紙、合巻、教訓本等の挿絵を多数残す➡⑭⑮

梅本鐘太郎編 『浮世絵備考』

(明治31年6月・東陽堂)

…慶応二年（1866）の巴里の万国博へ出品された浮世絵師十一人の画帖の揮毫の時は、国芳門人の芳宗と共に総代になってゐる。…彼は美人画の作もあり、風景画にも一特色をなし、武者絵もよくし、団扇絵の作も非常に多い。しかし最も彼の特色のある作品は一覧図と横浜絵と俗称される江戸版紅毛絵や開化図である。

一覧図は彼の殆ど日本国中に普き足跡から得た精密な実地踏査による鳥瞰図で、常に広大な地域を劃して六枚続、九枚続の大作を描いている。…横浜開港当時に鶴見の丘上より写した鳥瞰図は畳一畳位の大きさに、然も精密驚く可きものである。…

横浜開港の歴史的背景

寛政4年（1792）

- ・ロシア使節ラクスマン根室来航 通商を求める

文化元年（1804）

- ・ロシア使節レザノフ長崎来航 通商を求める

文化5年（1808）

- ・フェートン号（フリゲート艦）事件（イギリス軍艦長崎に不法入港）

文政元年（1818）

- ・イギリスの商船が浦賀に来航 ※同5年英国捕鯨船がに不法上陸（大津浜事件）

文政8年（1825）

- ・異国船打払令（無二念打払令）

文政11年（1828）

- ・シーボルト事件 ※「大日本沿海輿地全図」（伊能図）の持ち出し

天保8年（1837）

- ・モリソン号（アメリカの商船：浦賀・鹿児島）事件

※邦人漂流民の送還と通商・布教目的

天保11年（1840）

- ・アヘン戦争（～1842）

天保13年（1842）

- ・薪水給与令

嘉永2年（1849）

- ・イギリス軍艦マリナー号 浦賀と下田に来航・測量

嘉永6年（1853）

- ・マシュー・ペリー（東インド艦隊）浦賀来航

蒸気外輪フリゲート：サスケハナ・ミシシッピ

帆船スloop：プリマス・サラトガ

- ・プチャーチン長崎来航

嘉永7年（1854）

- ・ペリー再び来航 ➡⑦

蒸気外輪フリゲート：サスケハナ・ミシシッピ・ポーハタン

帆船スloop：サザンプトン・マセドニア・ヴァンダリア・レキシントン

- ・日米和親条約締結（下田・函館開港）

ペルリ提督横浜上陸の図

Commodore Perry Coming Ashore at Yokohama

HEINE, Peter Bernhard Wilhelm (1827-1885)



たまくすの木

「慶応大火」で大きく被害を受ける
イギリス領事館に移植（現横浜開港資料館）



安政元年（1855）

- ・日露和親条約

安政2年（1856）

- ・ハリス（初代駐日公使）来日

安政5年（1858）

- ・日米修好通商条約調印 ※孝明天皇の勅許は与えられていない
開港（函館・神奈川⇒横浜・長崎・新潟・兵庫） 開市（江戸・大阪）
- ・日蘭、日露、日英、日仏修好通商条約調印
※後に（1860）ポルトガル・プロイセンとも条約を結ぶ
- ・安政の大獄（修好通商条約・将軍後継者問題・尊王攘夷派の弾圧）

安政6年（1859）

- ・日米修好通商条約に基づき横浜港等開港

安政7年（1860）

- ・日米修好通商条約批准のため遣米使節を派遣 ※咸臨丸が随行
- ・桜田門外の変（大老井伊直弼の暗殺）

文久2年（1862）

- ・生麦事件 薩摩藩主島津久光の行列に英国商人リチャードソン等が遭遇、殺傷

文久3年（1863）

- ・5月 下関戦争（長州藩・米英仏蘭） 8月 薩英戦争 ※攘夷→倒幕

慶応2年（1866）

- ・慶応の大火（豚屋火事）

慶応3年（1867）

- ・大政奉還・王政復古の大号令

明治元年（1868）

- ・江戸を東京と改称 明治に改元

明治2年（1869）

- ・東京遷都

明治5年（1872）

- ・新橋横浜間に鉄道開通 ＊ 築地居留地と横浜居留地とを繋ぐ路線

明治5年6月12日 品川—横浜（仮開業）

7月10日 品川—川崎—横浜

10月14日 新橋—川崎—神奈川—横浜（正式開業）

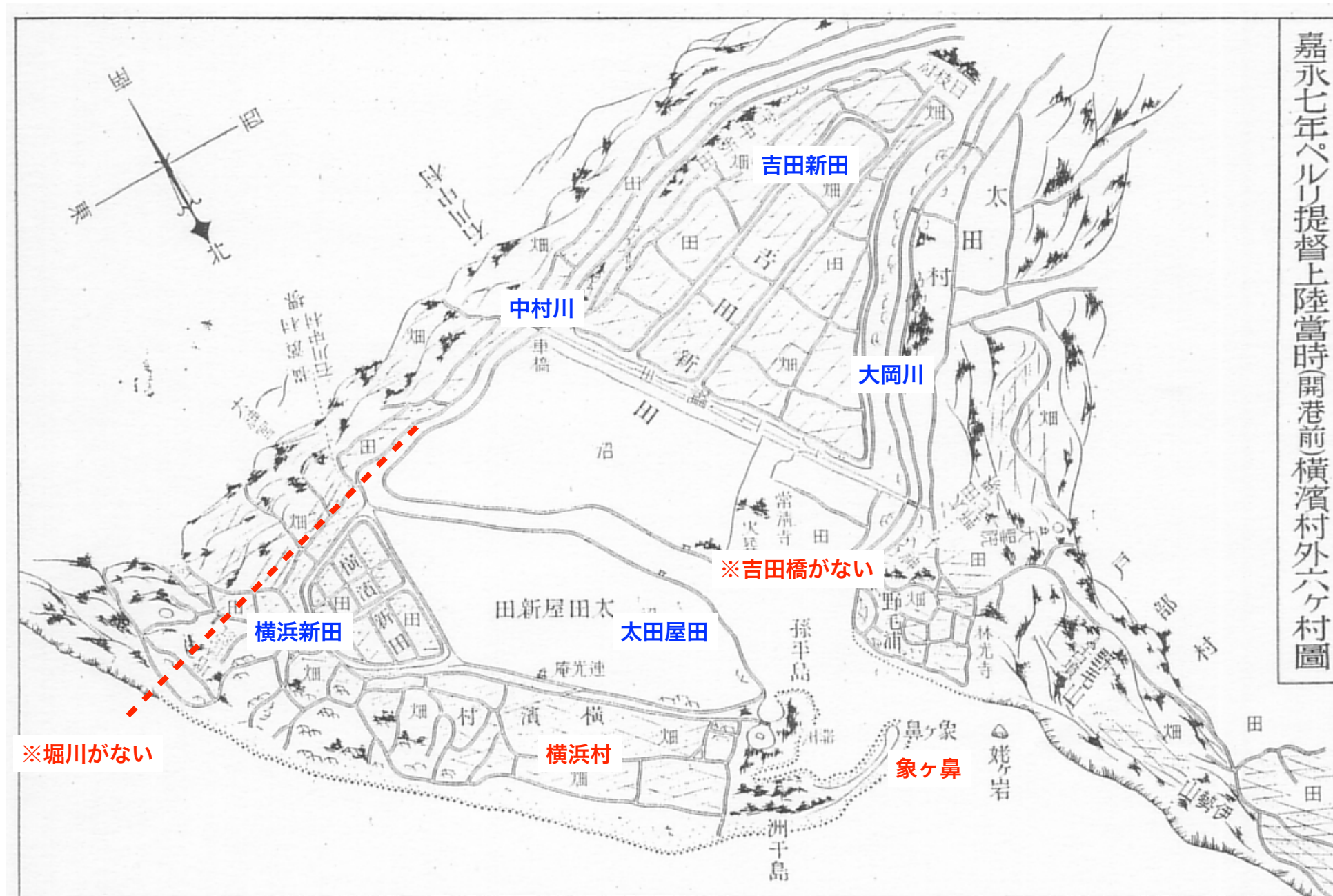
10月15日 新橋—川崎—鶴見—神奈川—横浜（一般開業）

ペリー来航時の横浜の様子

嘉永7年（1854）ペリー提督上陸当時横浜村外六ヶ村圖

吉田新田：寛文7年（1667）完成 吉田勘兵衛（1611-1686：材木・石材商）

横浜新田・太田屋新田（太田敬明）：文化年間（1804-1818）



①神奈川港崎貿易場大絵図

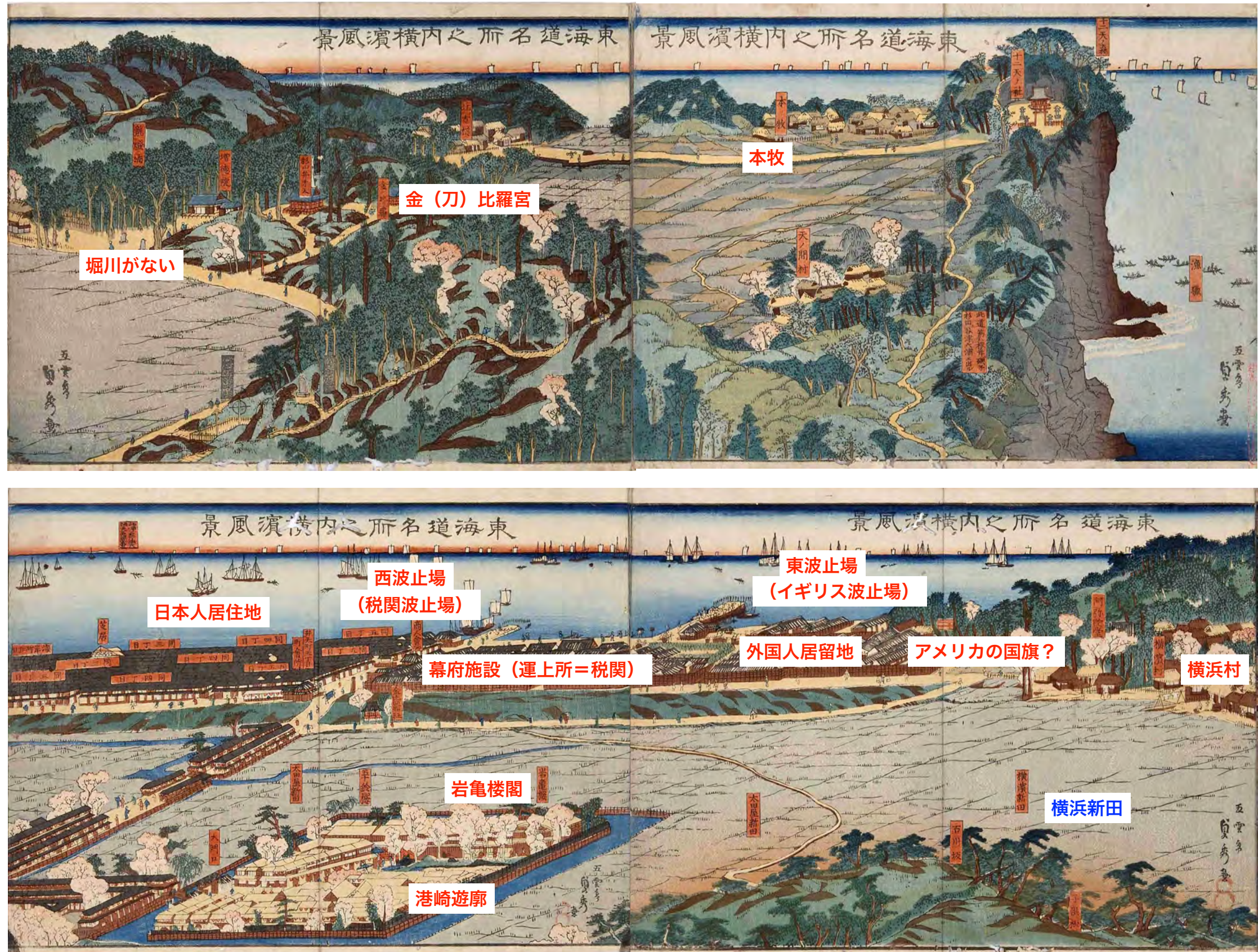
神奈川港崎貿易場大絵図御開地御役屋敷并町々寺院社地至る迄明細大繪圖

一玉斎（佐野屋富五郎） 画 安政6年（1859）横浜 新栄堂刊



②東海道名所之内横浜風景 (1)

五雲亭貞秀画 万延元年（1860）刊



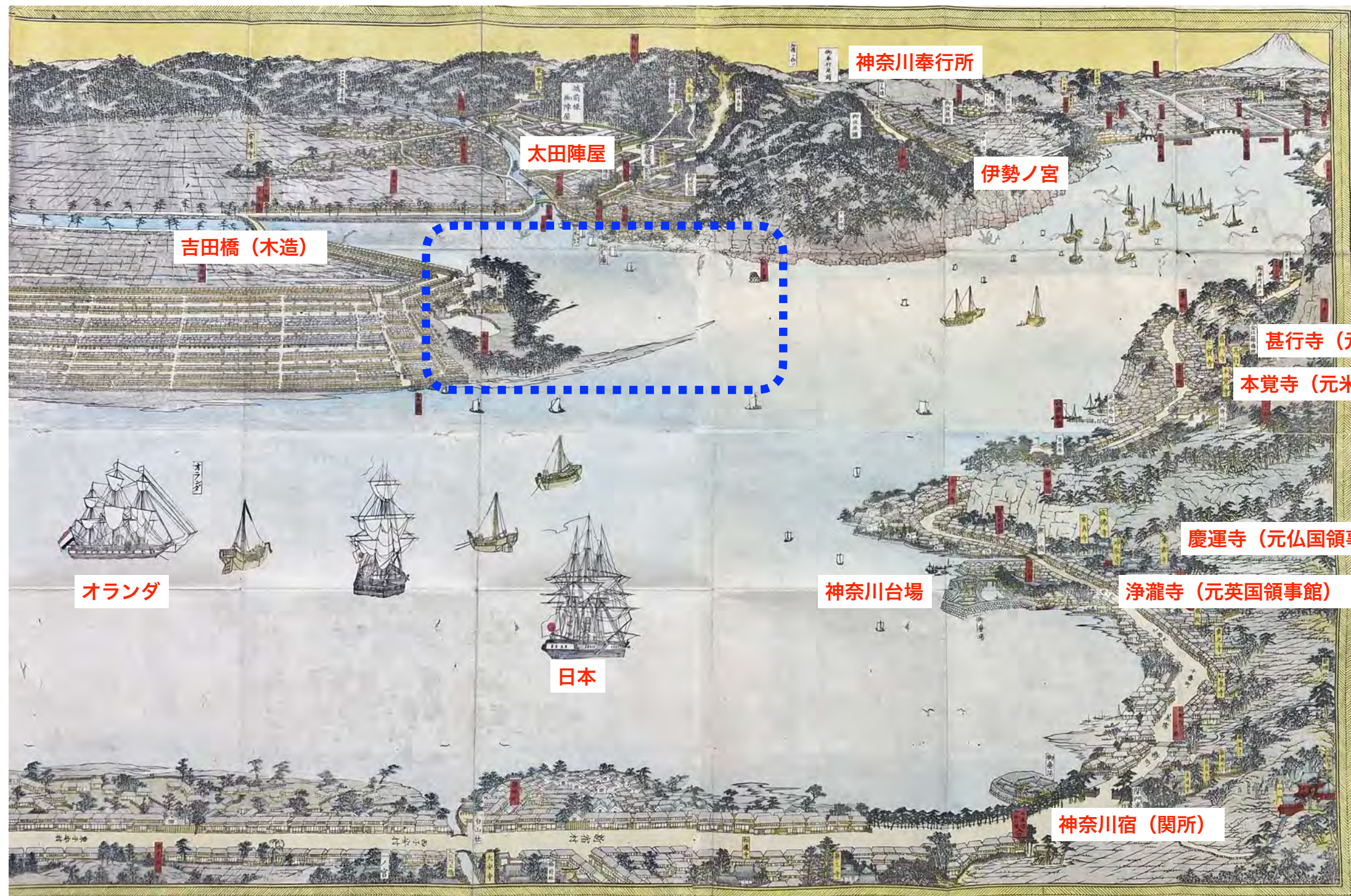
②東海道名所之内横浜風景 (2)

五雲亭貞秀画 万延元年（1860）刊



③御開港横浜之全図(1)

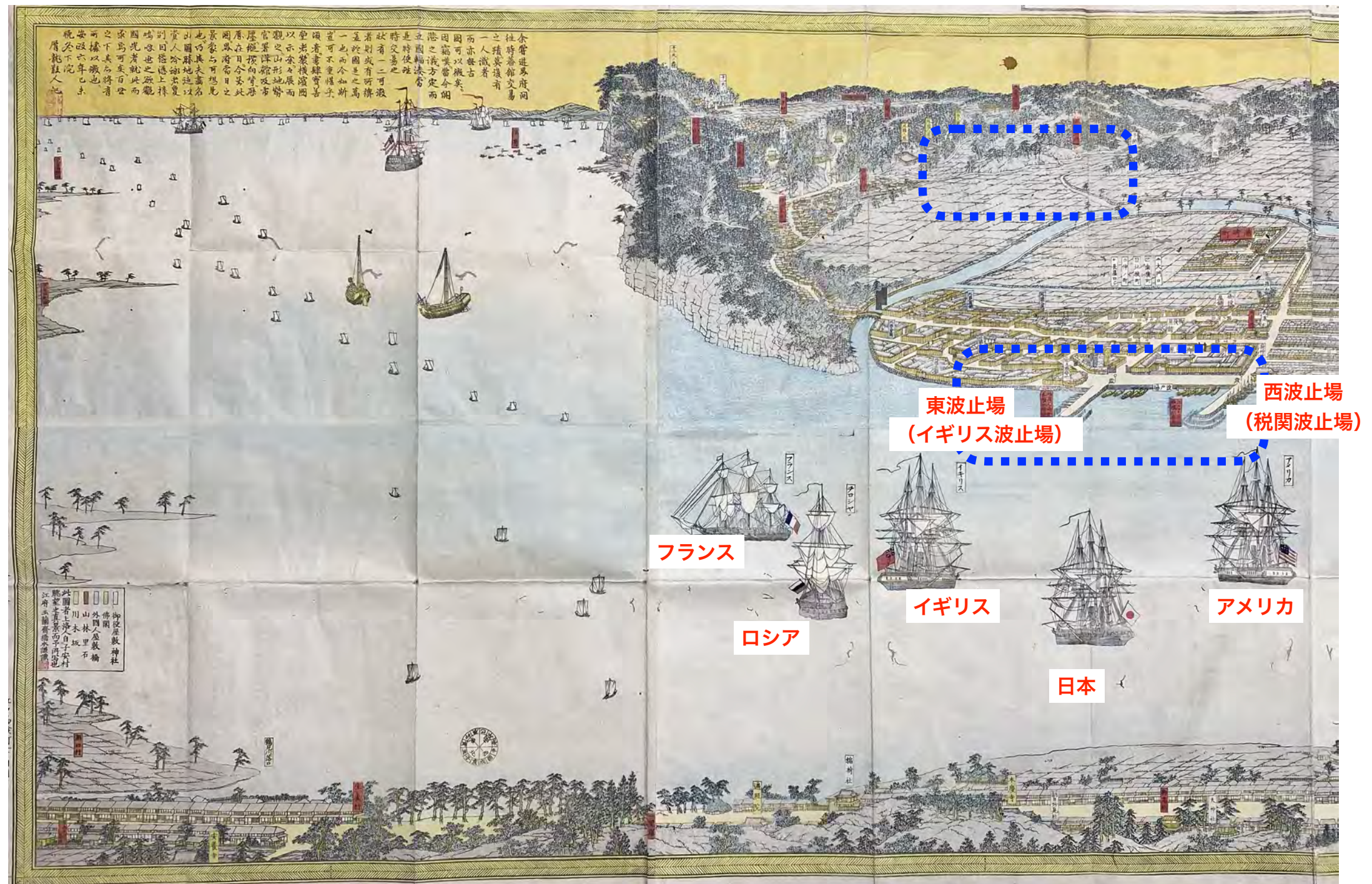
玉蘭齋橋本画 万延元年（1860） 江戸 丸屋徳造刊



⑨ 〈増補再刻〉 御開港横浜之全図と大きな違いが見られる区域

③御開港横浜之全図(2)

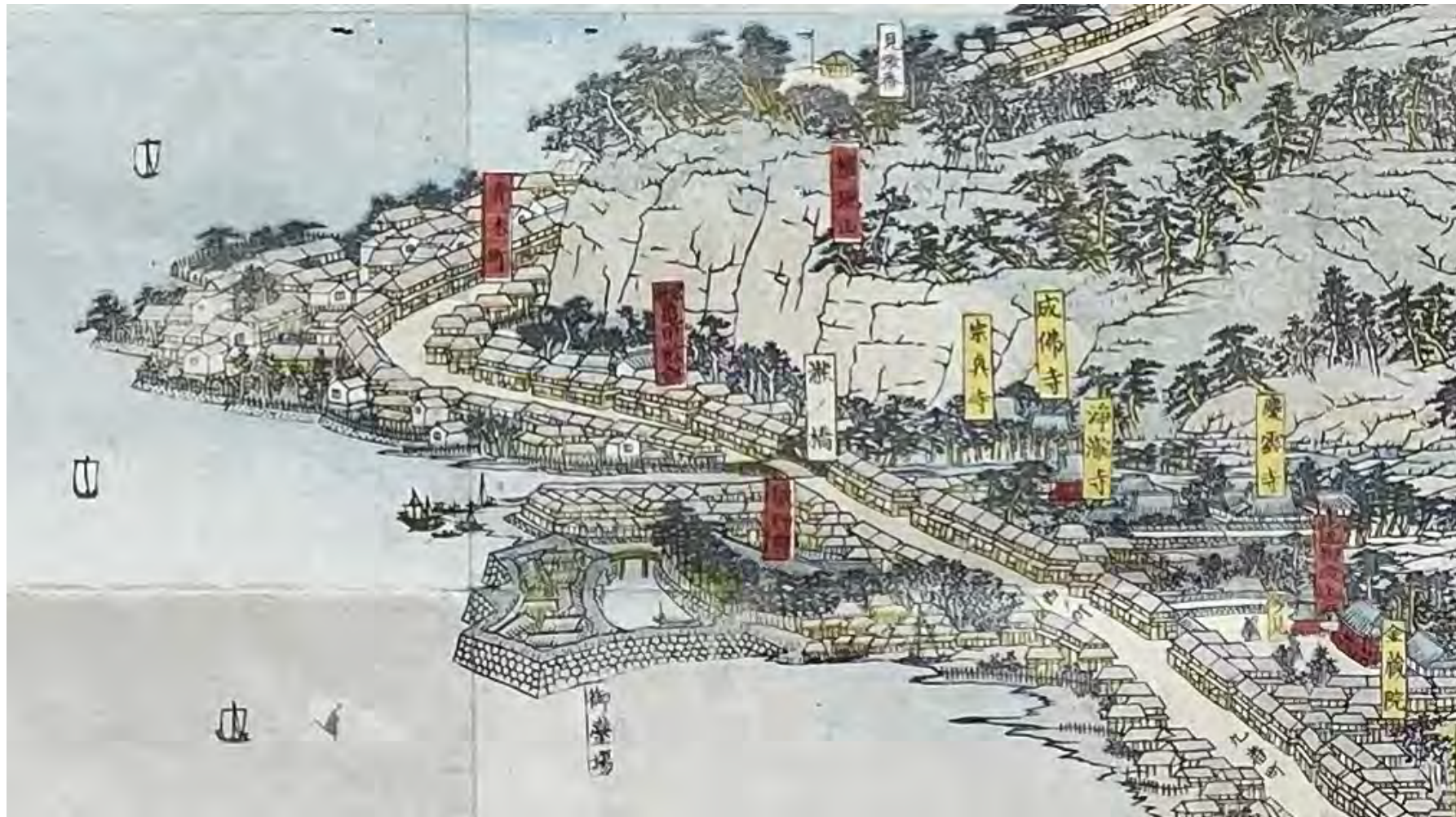
玉蘭齋橋本画 万延元年（1860） 江戸 丸屋徳造刊



⑨ 〈増補再刻〉 御開港横浜之全図と大きな違いが見られる区域

神奈川台場

万延元年（1860）8月設置 勝海舟設計



東京湾を侵攻する船舶に対する防衛拠点実戦では未使用

外国からの貴賓が迎える祝砲

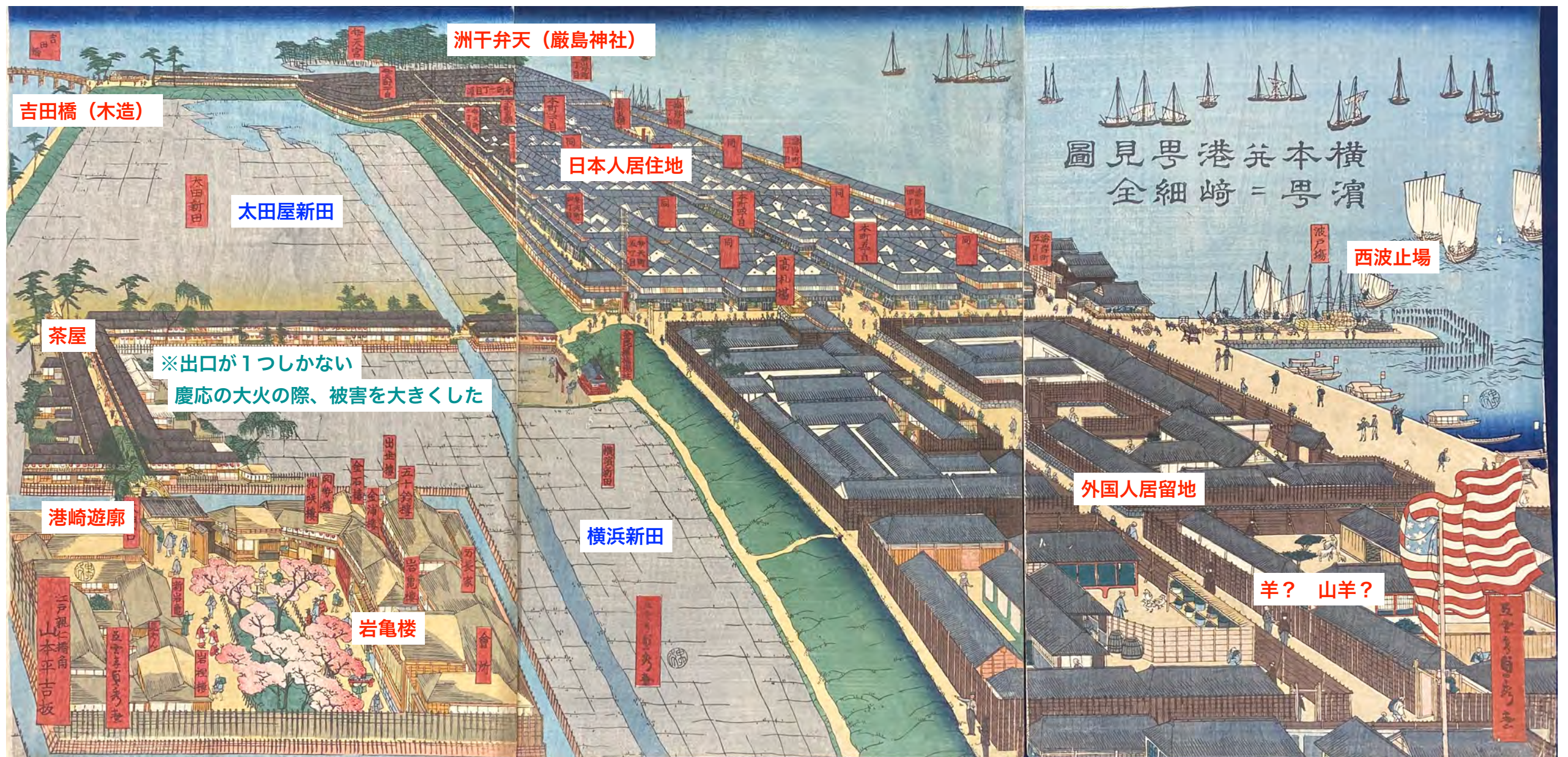
明治32年（1899）廃止

JR貨物東高島駅 石垣遺構が残る

④横浜本町并二港崎町細見全図

五雲亭貞秀 画

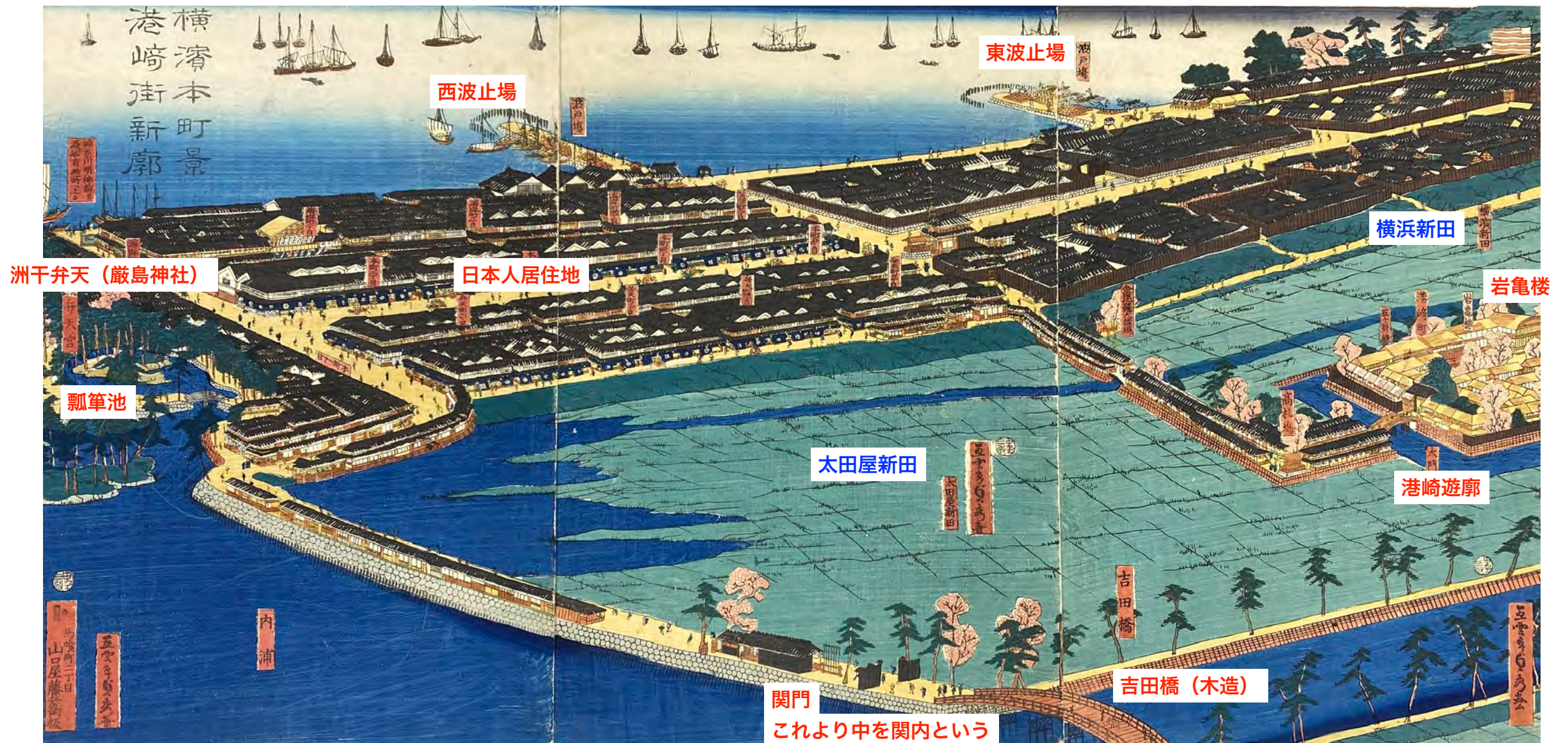
万延元年（1860）江戸 山本平吉刊



⑤横浜本町景 港崎街新廓

五雲亭貞秀 画

万延元年（1860）江戸 山本平吉刊



港崎（みよざき）遊廓

安政6年（1859）開業

慶応の大火（横浜の大火・豚屋火事）

慶応2年（1866）10月20日

豚肉料理屋より出火 港崎遊廓に延焼 遊女400人以上が焼死

（アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』）

外国人居留地の1/4・日本人町1/3が灰燼に帰す

慶応3年（1867）吉田新町、明治5年（1872）高島町へ移転

「横浜遊郭移転等に関する約書」（英国⇄江戸幕府）

港崎町の地所を外國竝日本彼我に用ふべき公けの遊園（現横浜公園）と為し、是を擴め、平坦に為し、樹木を植え付ける事を日本政府にて契約せり。 ※「大通」（現日本大通り）の整備

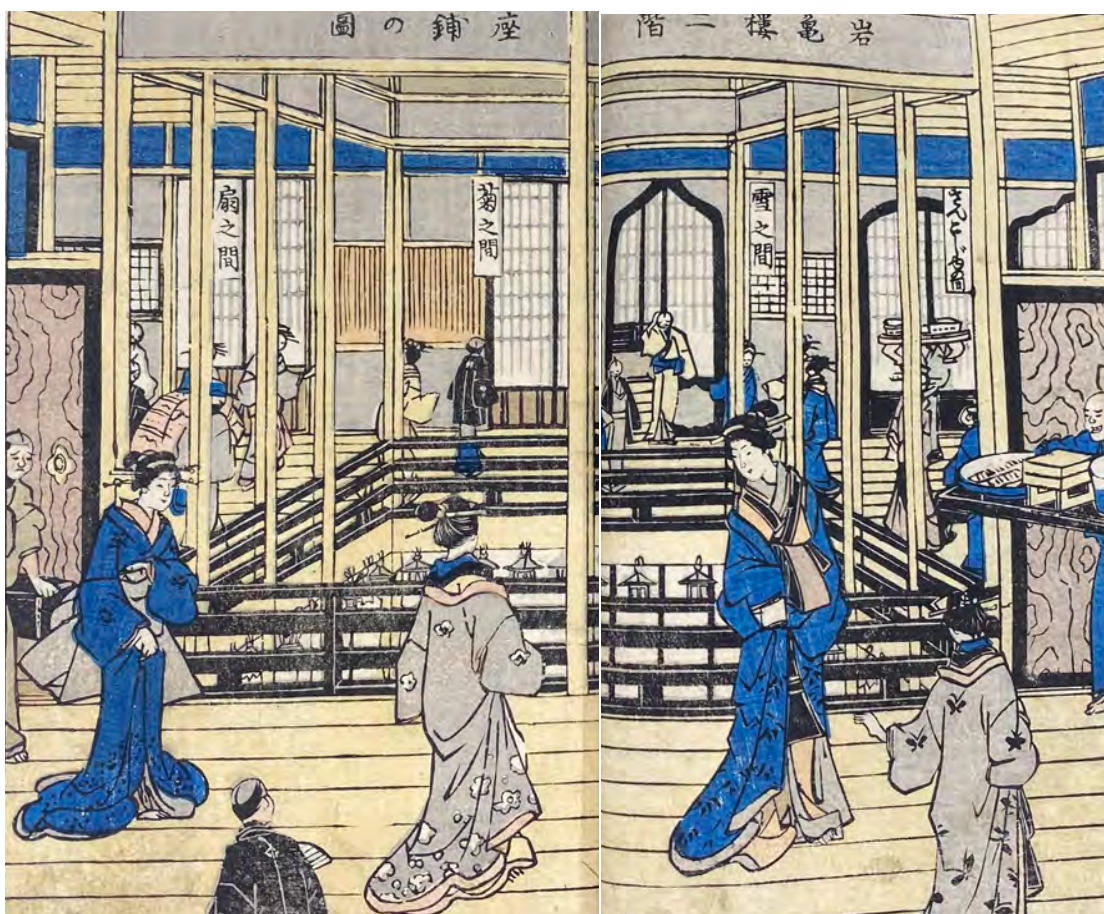
⑥横浜土産

玉蘭齋亭貞秀画 万延元年（1860）序 江戸 住吉屋政五郎・岐阜屋精七刊

岩亀楼

岩槻屋佐吉（品川宿旅籠・港崎遊廓開発者・港崎町名主）





岩亀楼亀遊

露をだにいとふ大和の女郎花亀遊は、太田正庵なる町医であつたが、江戸皆川街の家はかの安政の大地震に潰れて、家道の衰へた結果彼女は未だいたいけな蕾の十一で、親の為吉原江戸街甲子屋に身を売られ、十五の春に源氏名を子の日と呼んでつきだされたであつたが、後に横浜の岩亀楼に買はれた。かくて彼女が天性の美貌と技藝の才は客を呼んで、同楼第一の全盛となつた。

所が偶々横浜来泊中の米人イルースなる者、亀遊の美貌にあこがれ楼主に掛合つた。楼主は慾に眼がくらんで、亀遊紙の辞むには拘はらず、二百金で一夜妻たることを承知した。

されど飽くまで氣象の凛々しき亀遊の、いかで当時怨敵同様の碧眼に肌身をけがそうや、固く楼主の命を拒んで其当日の暁、恨は深し岩亀楼上花魁の輝いた金屏の中は血汐の海となつた。言はずと知れた彼女が自害を為たのである。その残した書置は死ぬる身の悲哀をしるすよりも、却つて男子をして奮起せしむる底のしつかりした血書であつた。先づ世間の苦海に浮沈みする女は幾萬千と数知らぬが、悉く女の第一の寶たる操羽田をあだし男に許す、これも両親の家の為ならばぜひも無いが、あゝ誠に黄金は女の身を切る刃である。この我なきがらを今宵の客に見せよ、そして賤しき浮かれ女でも日本の人は斯くぞと示せと知るし、その末に、

露をだにいとふ大和の女郎花ふるあめりかに袖はぬらさじ

の一首を添へて有つた。黄金の魂を引換へにする当世の人々、不知此の賤の女に対して恥ずるなきや。

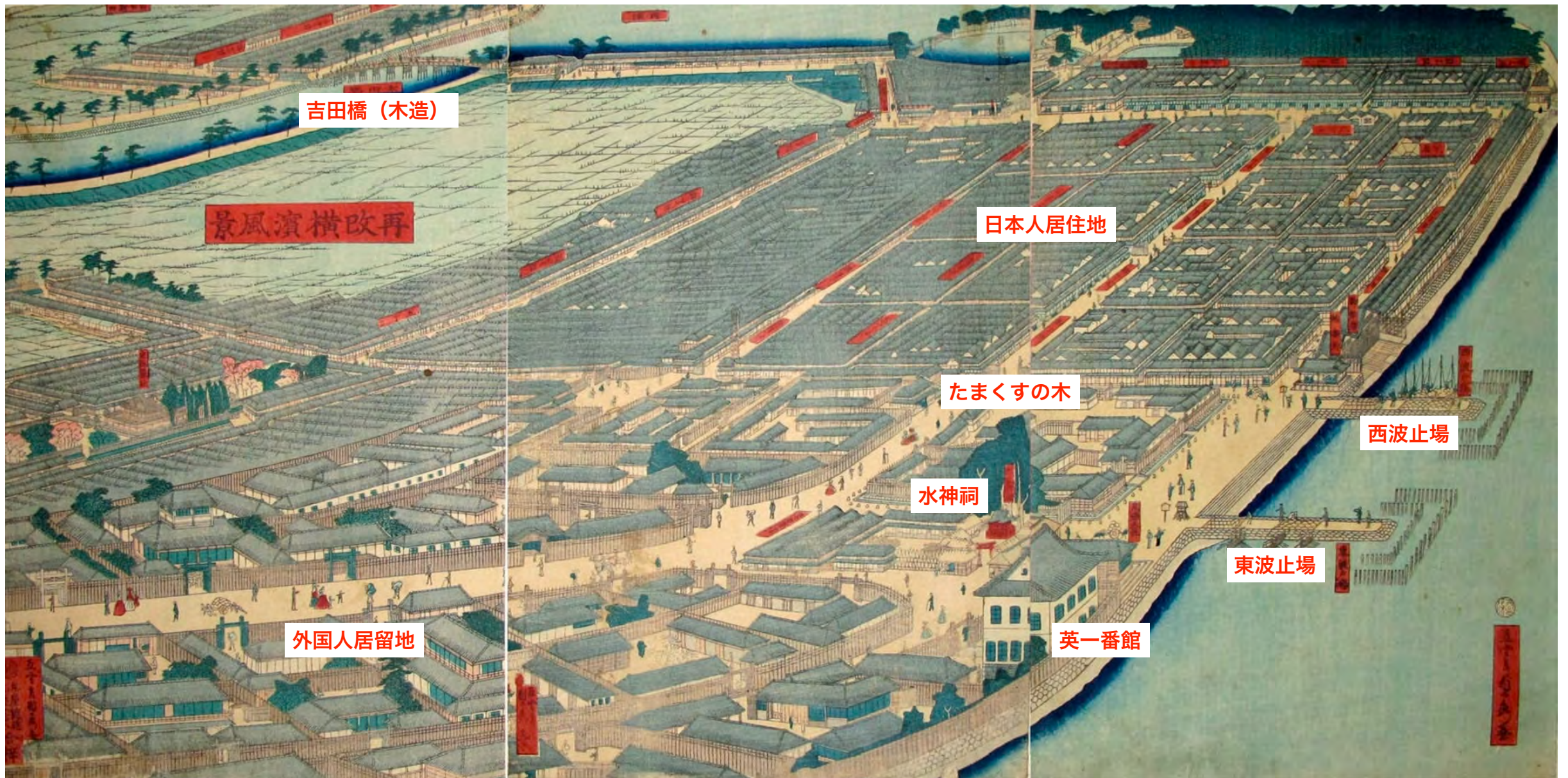
(粹法師編『美人艶婦伝』大正元年(一九一二)・松雲堂)

<https://doi.org/10.11501/916788>

⑦再改横浜風景

五雲亭貞秀 画

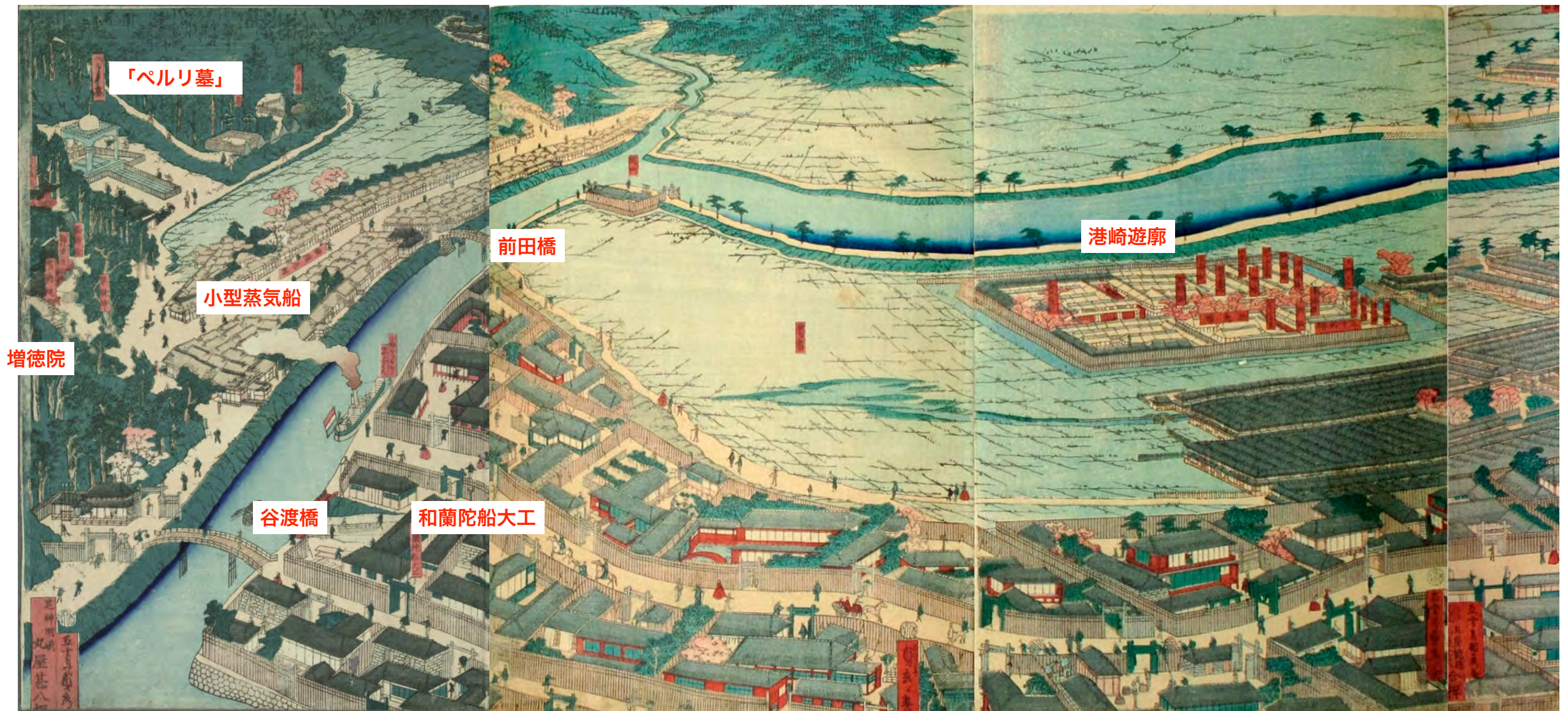
万延2年（1861）／文久元年（1861）6月 江戸 丸屋徳造・同甚八刊



⑦再改横浜風景

五雲亭貞秀 画

万延2年（1861）／文久元年（1861）6月 江戸 丸屋徳造・同甚八刊



※これまでになく異国人居留地が詳細に描かれている。

翌文久2年 1862(壬戌)には『御開港覆横浜大絵図』の第二編として「外国人住宅図」を刊行している。

⑫横浜英吉利西商館繁栄図

一蕙斎（落合）芳幾画 明治4年（1871）東京 萬屋孫兵衛刊

英一番館（山下町居留地1番館）

万延元年（1860）完成：鹿島岩吉（鹿島建設創業者）

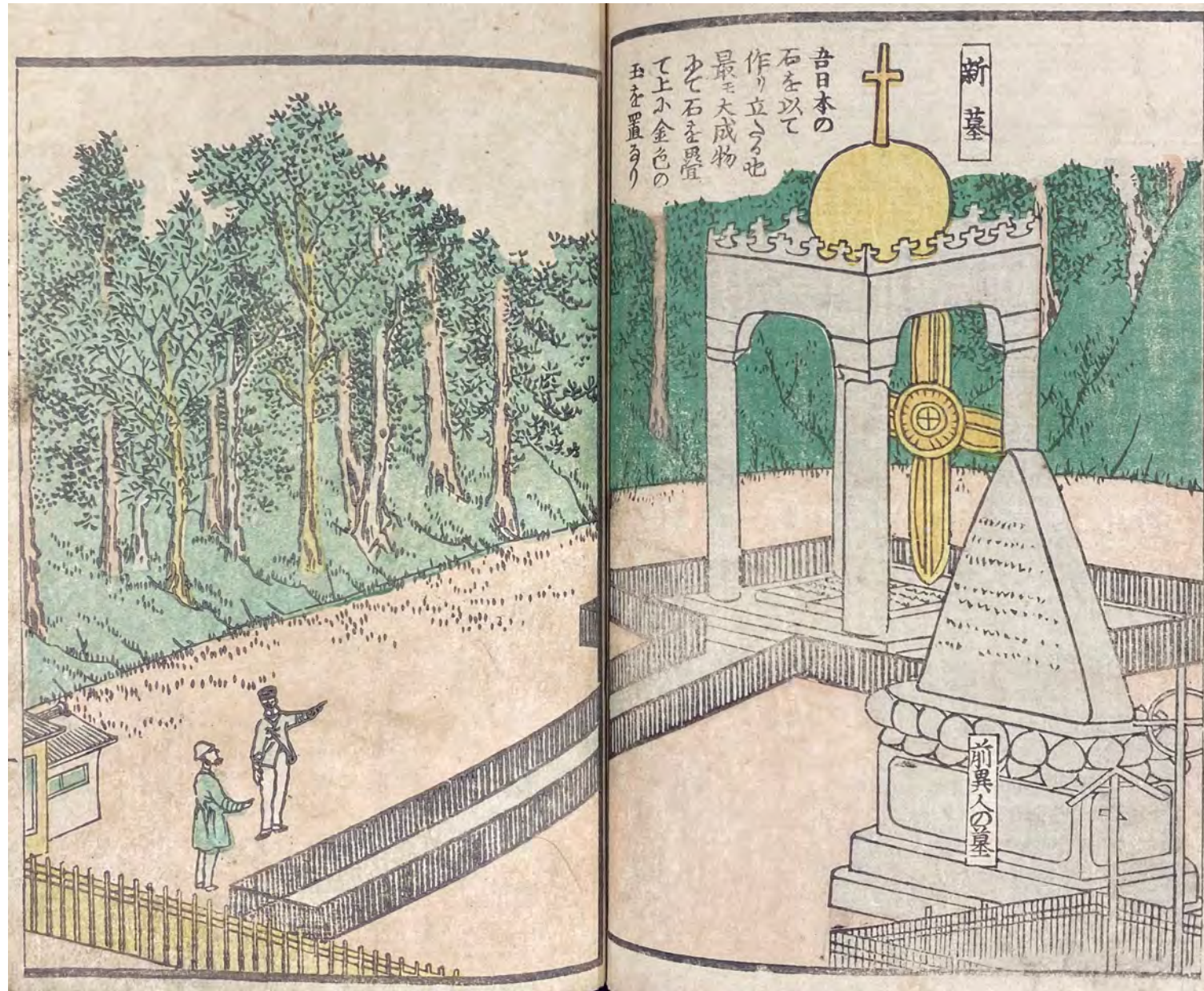
ジャーディン・マセソン商会横浜支店Jardine Matheson Holdings Limited

インドのアヘンを清に密輸 清で生産された茶をイギリスへ輸出



新墓（ペルリ墓）

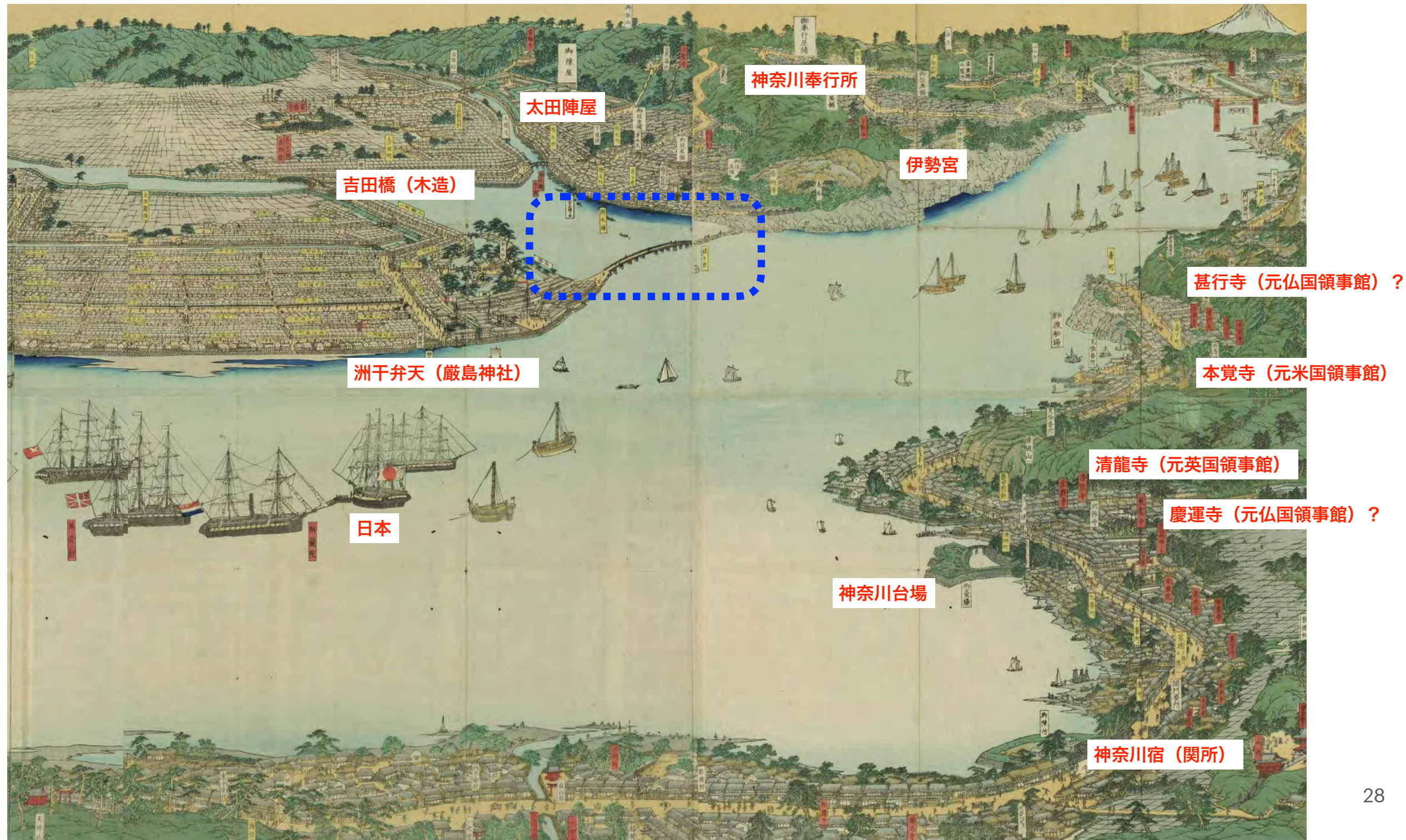
吾日本の石を以て作り立たる也 是も大成物にて石を置て上に金色の玉を置なり



嘉永七年（一八五四）、ペリー2度目の来航の際、水兵ロバート・ウィリアムズがミシシippiのマストから誤って転落、死亡。増徳院の境内に墓を設置。文久元年（1861）には、根岸に外国人専用の墓地が造られる（外国人墓地）。

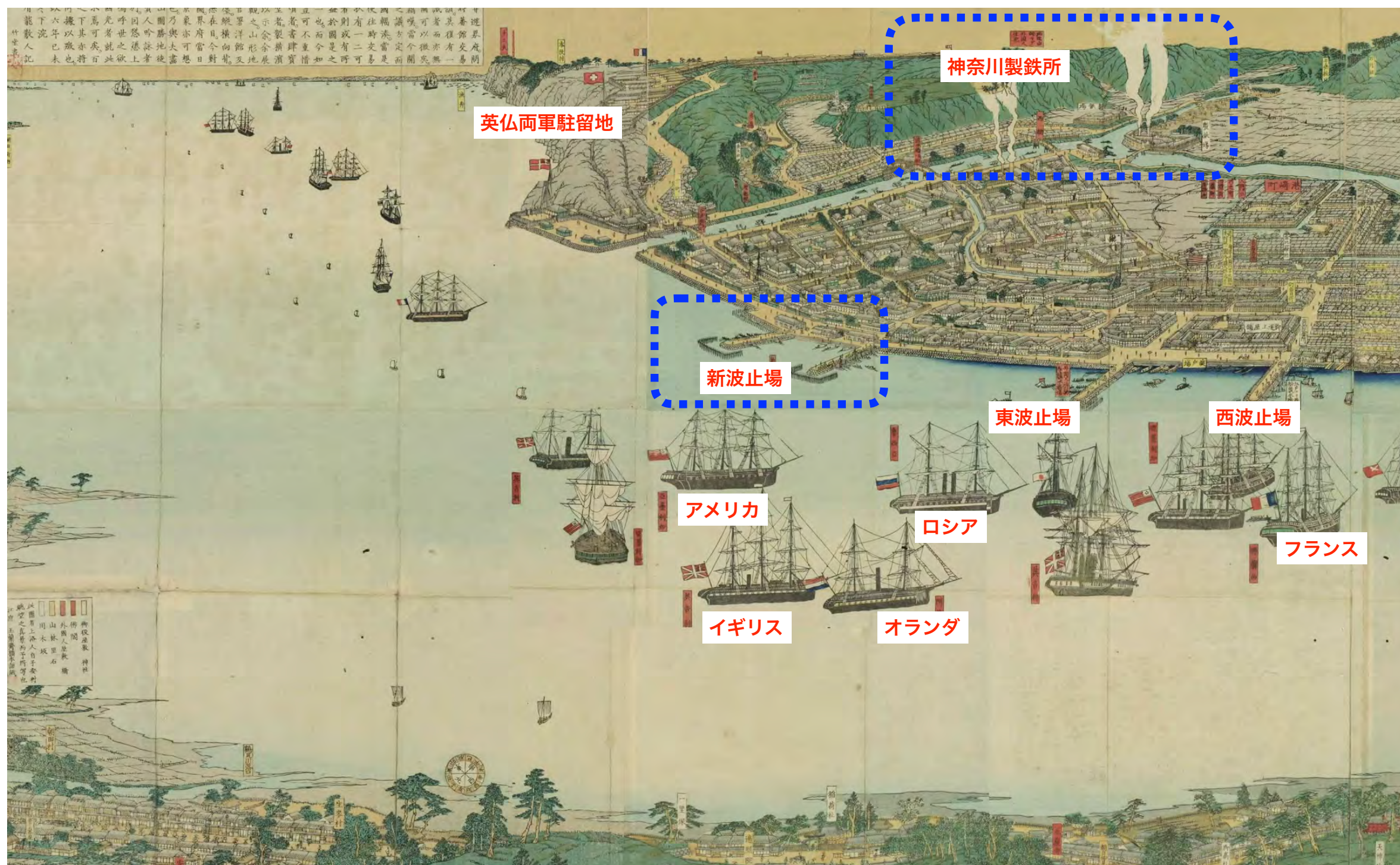
⑨ 〈増補再刻〉 御開港横浜之全図 (1)

玉蘭齋橋本画 〔慶応2年（1866）〕江戸 丸屋徳造刊



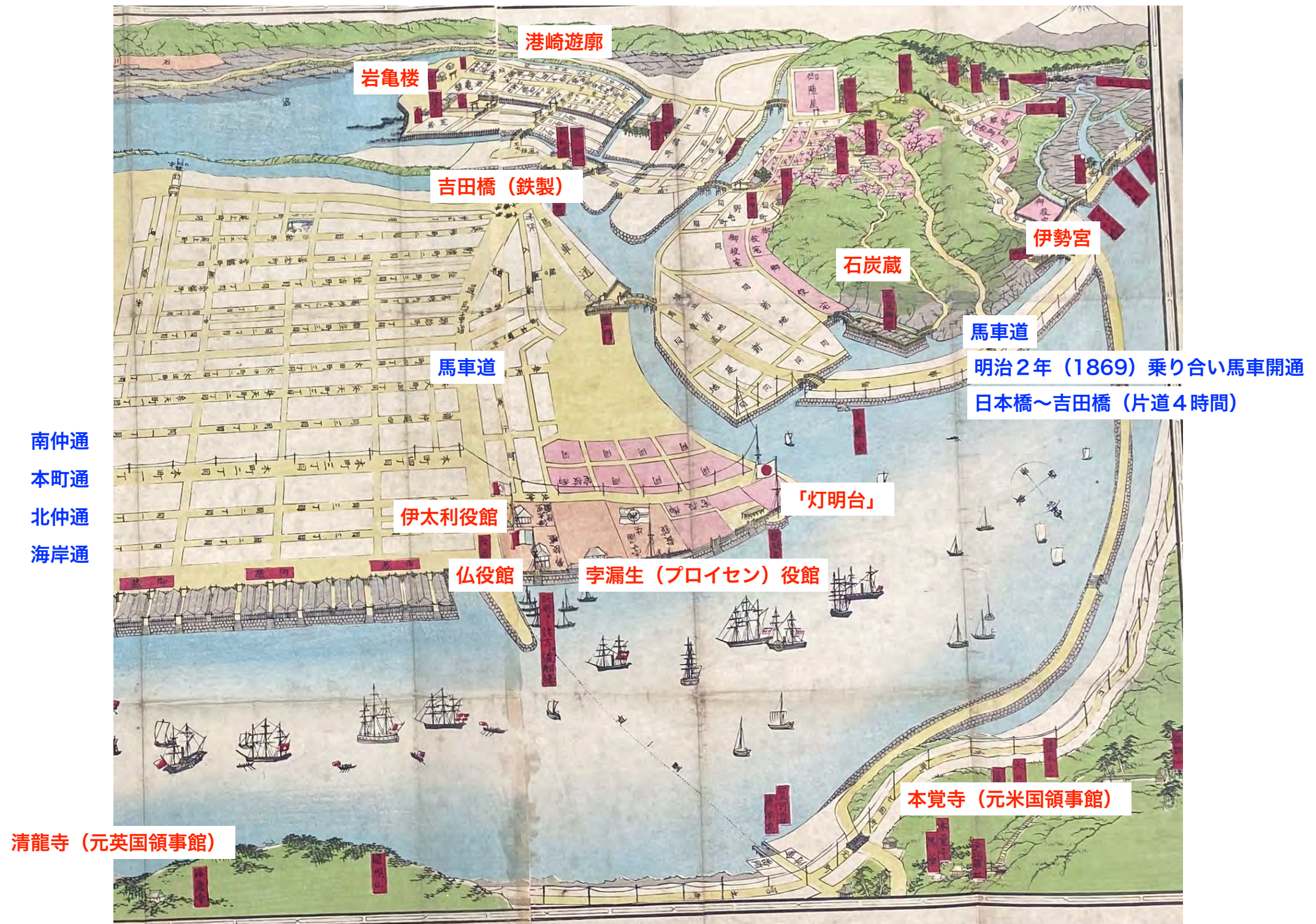
⑨ 〈増補再刻〉 御開港横浜之全図 (2)

玉蘭齋橋本画 〔慶応2年（1866）〕江戸 丸屋徳造刊



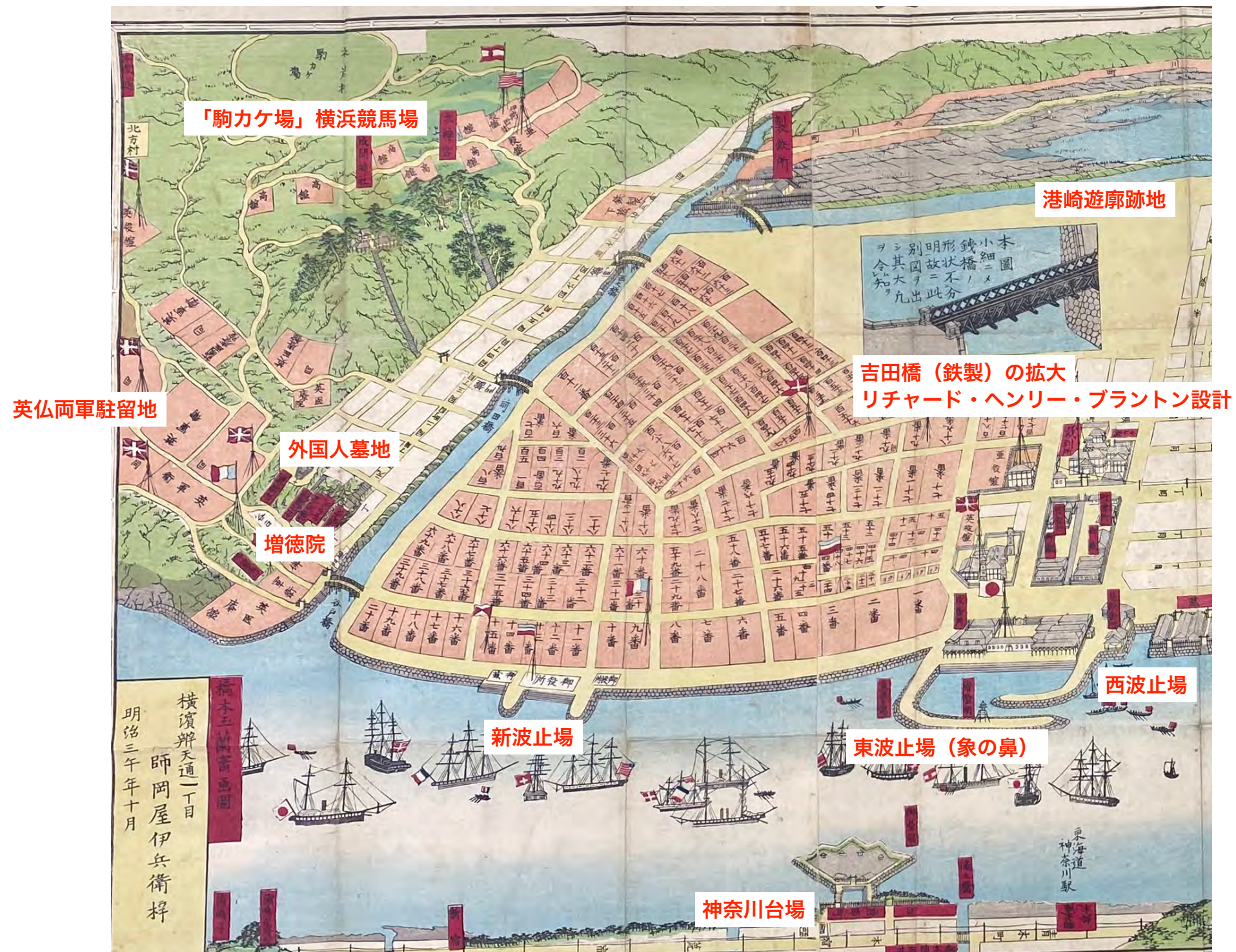
⑩横浜明細之全図(1)

橋本玉蘭齋 画 明治3年（1870）横浜 師岡屋伊兵衛刊



⑩横浜明細之全図(2)

橋本玉蘭斎 画 明治3年（1870）横浜 師岡屋伊兵衛刊



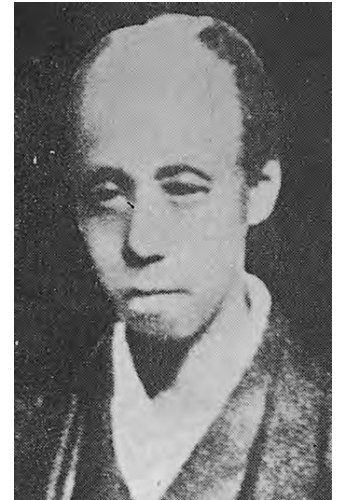
象の鼻：慶応3年（1867）東波止場が弓なりに改築される

横浜製鉄所

(横浜製作所・横浜製造所)

慶応元年（1865）10月竣工（石川口）

製鉄・精錬・造船



『小栗上野介忠順公を憶ふ』
市川亭三郎 著 上毛郷土史研究会 1937

小栗忠順（おぐり・ただまさ）

日米修好通商条約批准書交換使節・外国奉行・勘定奉行
海防の近代化の必要性

フランス人技師団が業務を担う

明治維新後は横浜裁判序総督に接收され、
明治2年（1869）に大蔵省の管轄となる。

炭坑・鉱山開発 フランス語学校 人事労務管理

⑬横浜吉田橋馬車道之図

歌川広重（三代） 明治4年（1871）東京 辻岡屋文助刊



安政六年（1859）、吉田新田と太田屋新田の間に流れる大岡川に橋が架けられる。

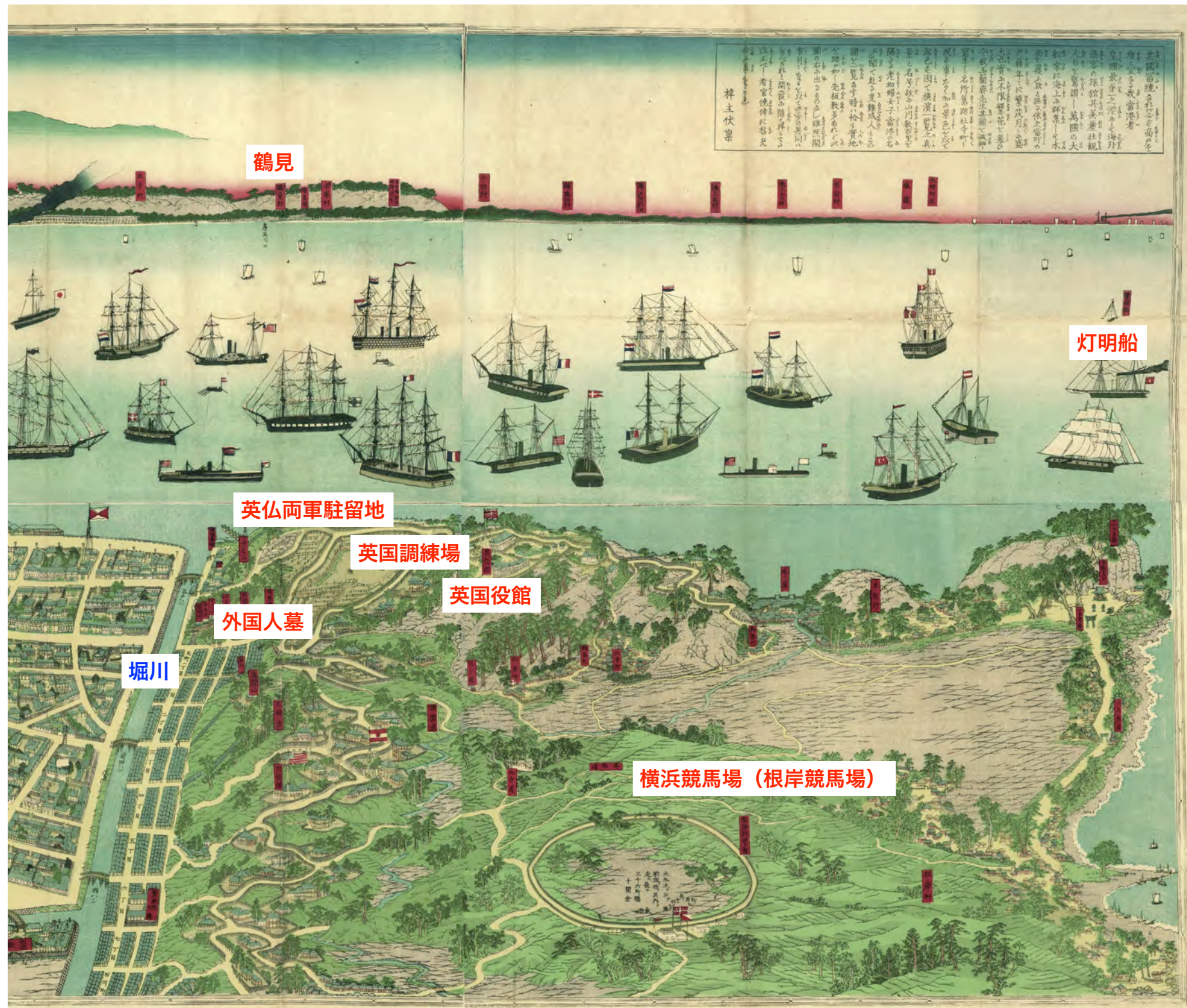
東海道と横浜港を結ぶ横浜道が開通（3ヶ月で完成）。

明治2年（1869）に鉄橋に架け替え（日本では2番目）。リチャード・ヘンリー・ブラントン設計。 33

※日本最初の鉄橋：明治元年（1868）長崎市「鉄橋」（21.6m）

⑪横浜式覧之真景(1)

橋本玉蘭斎画（貞秀） 明治4年（1871）横浜 師岡屋伊兵衛刊



根岸村駒場
大丸木ヲ以テ駒垣ヲ作り其内ヲ走ル、長サ
三十六町、幅十間余、
※約三九〇メートル
東京競馬場 芝三四〇〇メートル

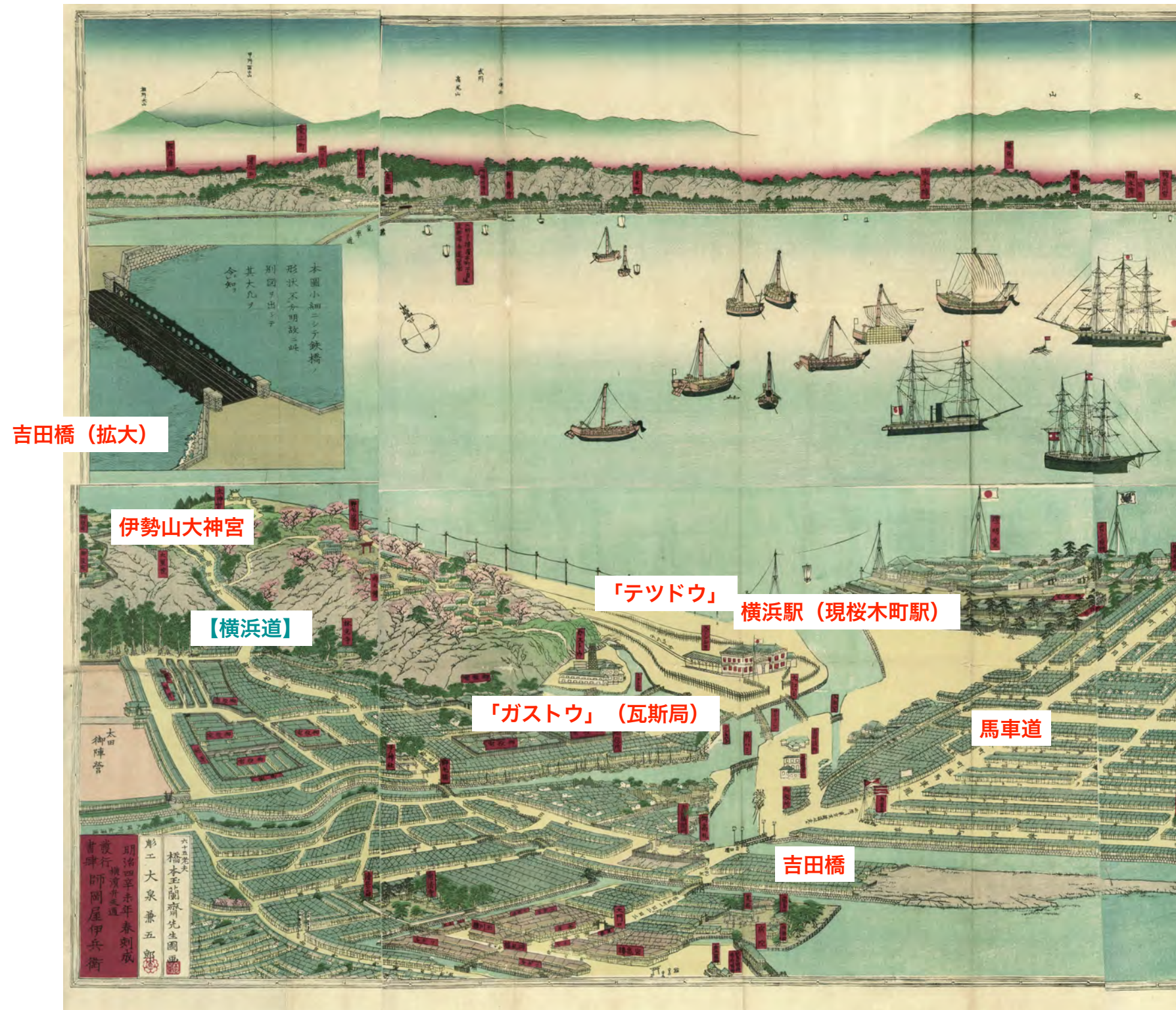
⑪横浜式覧之真景(2)

橋本玉蘭斎画（貞秀） 明治4年（1871）横浜 師岡屋伊兵衛刊



⑪横浜式覧之真景(3)

橋本玉蘭齋画（貞秀） 明治4年（1871）横浜 師岡屋伊兵衛刊



横浜競馬場

慶応2年（1866）開場（根岸台）

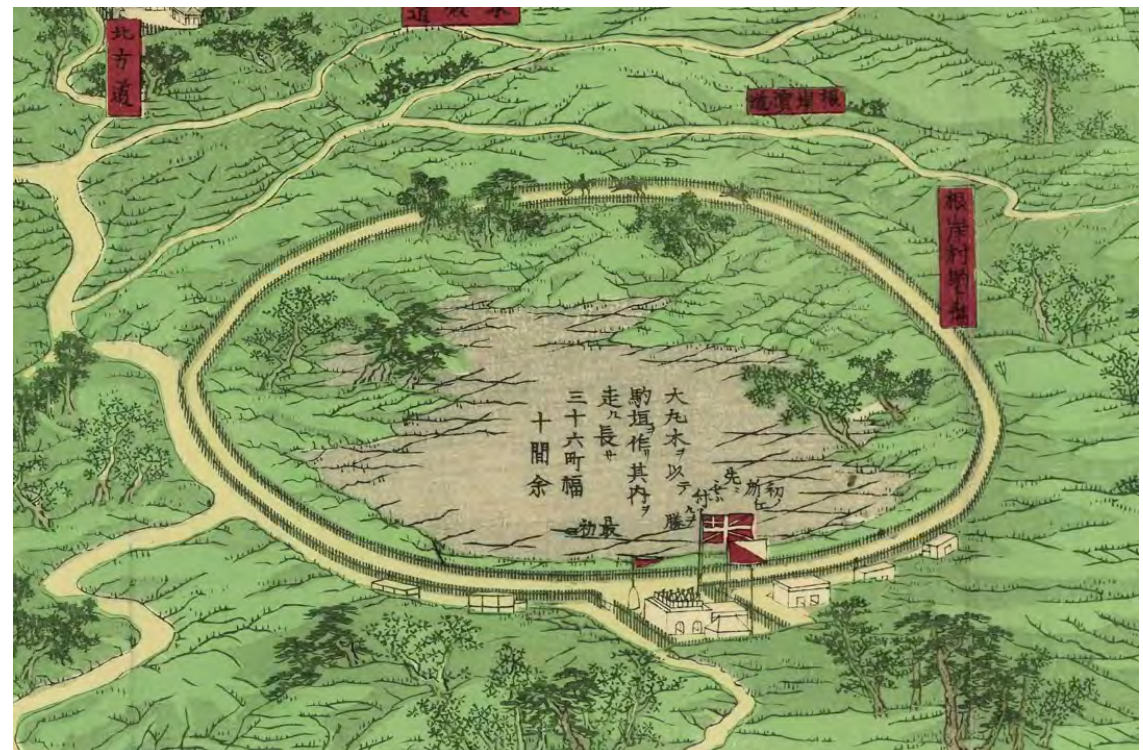
昭和11年（1943）閉場

横浜新田競馬場

文久2年（1862）横浜新田に仮設の円形馬場

5月1日～2日 春競馬（初開催）

同年8月 生麦事件 → 自由に乗馬できる場所が必要となる



京浜間蒸気船

慶応3年（1867）10月就航

稲川丸 弘明丸

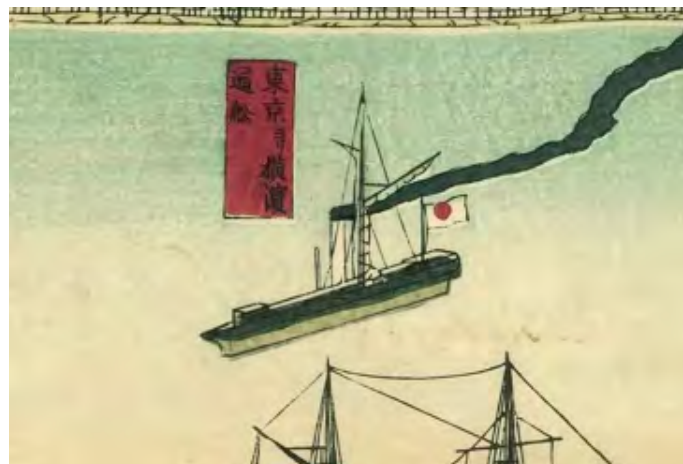
（江戸の回漕店）**松坂屋弥兵衛**および横浜鹿島屋亀吉の合資にて米人ヴァン・リードの仲介により汽船を購い、「稲川丸」と名付けて、ヴァン・リード経営の名のもとに、毎日、江戸横浜間の定期航海を開始す。

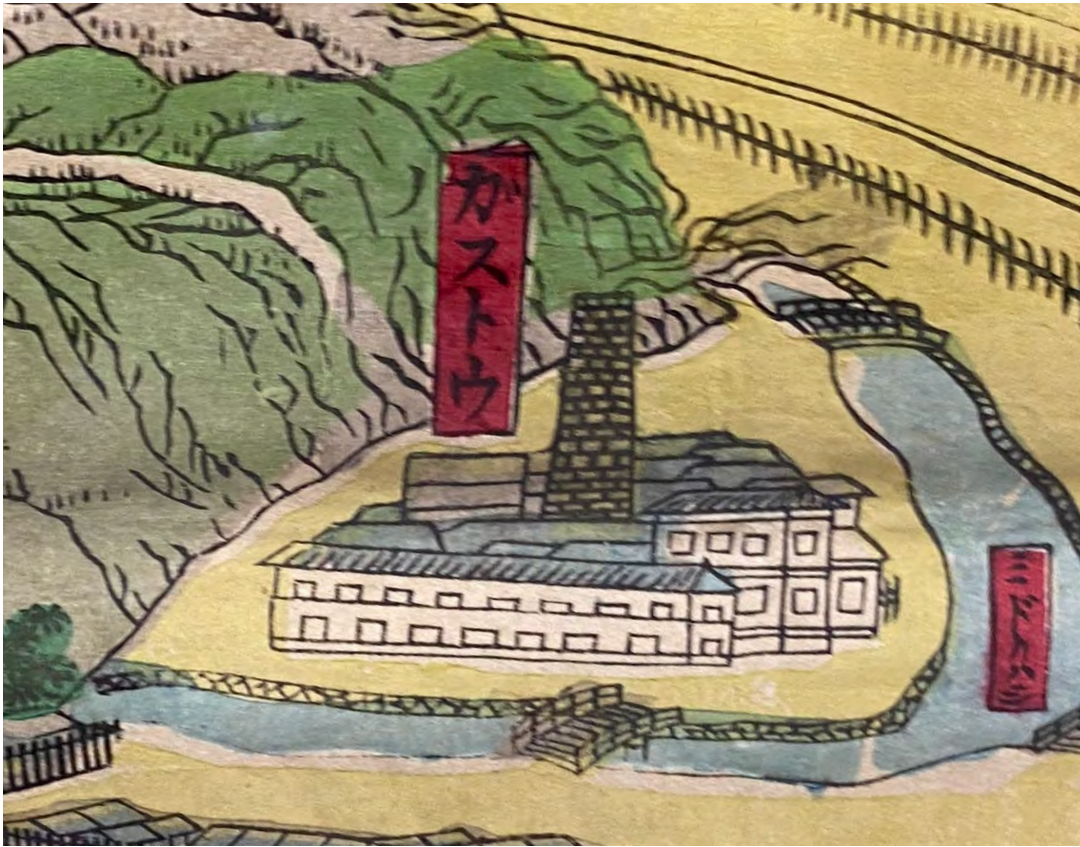
（柳川春三・岸田吟香等編『三代言論人集』第1巻・昭和37年 時事通信社）

明治5年（1872）航路廃止

鉄道開通による

稲川丸・弘明丸は北海道開拓使に売却（後に青函連絡船に利用）





瓦斯局（瓦斯灯）

伊勢山太神宮下 炭蔵前

明治3年（1870）

高島嘉右衛門 ガス会社を設立
フランス人技師アンリ・プレグランの
指導を仰ぐ

明治5年（1872）9月完成

馬車道・本町通間に数十本のガス灯

明治8年（1875）譲渡

「横浜市瓦斯局」

現在：東京ガス

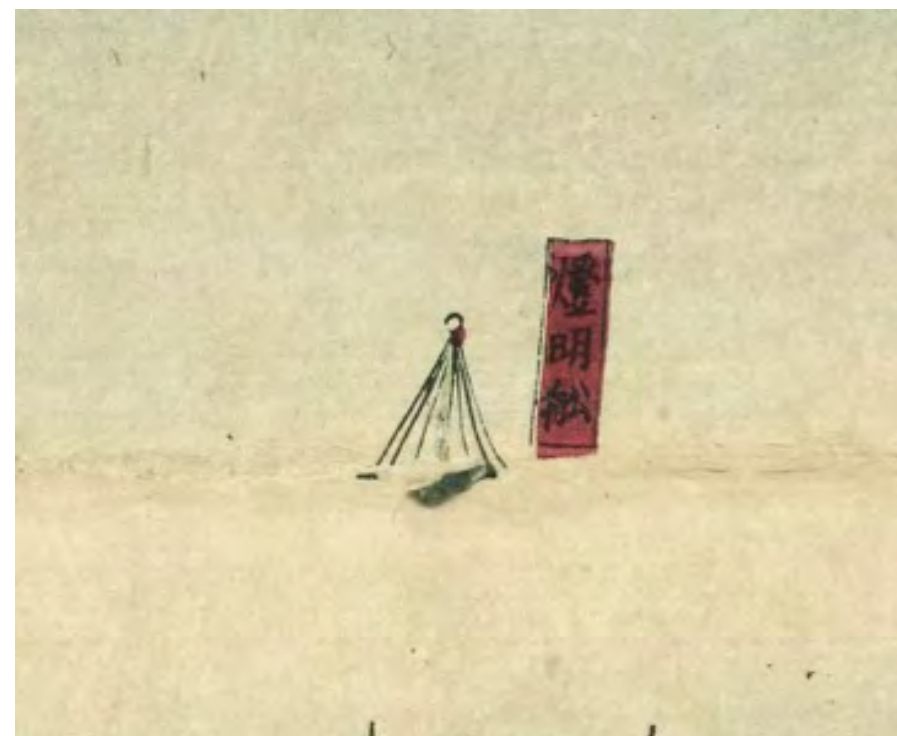
灯明台・灯明船

リチャード・ヘンリー・ブラントン

Richard Henry Brunton スコットランド 1841-1901

「日本灯台の父」

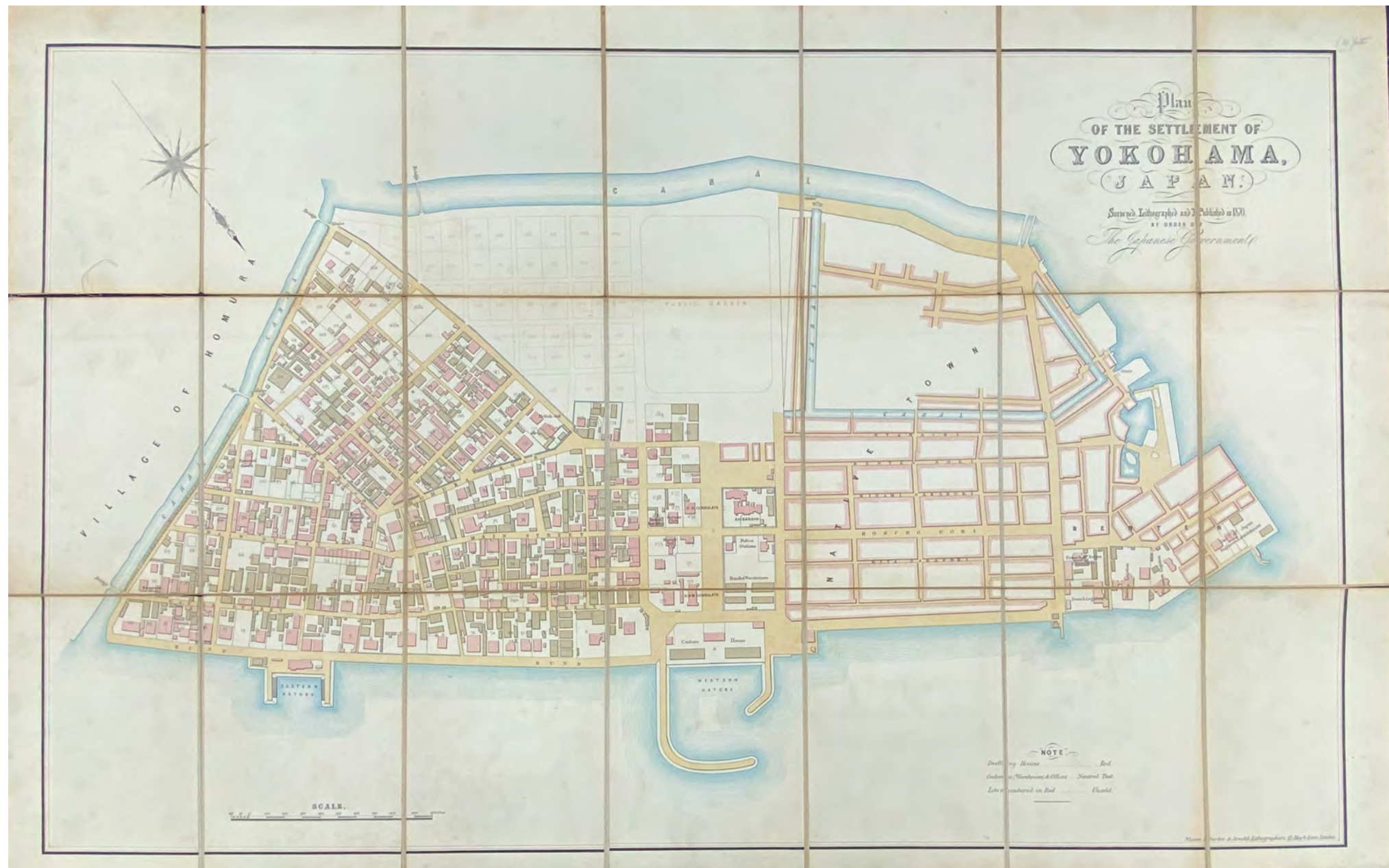
26の灯台 5箇所灯竿 2艘の灯船



ブラントン：日本大通に西洋式舗装を導入

①⑥ Plan of The Settlement of Yokohama, Japan

リチャード・H・ブラントン（英・1841-1901）作製
1870年（明治3年）



日本政府の依頼で測量・製作

ピンク：住居 灰色：オフィス 赤線：売り出し中

主要参考文献

- ・ 岩壁義光編 『横浜絵地図』 1989年3月 有隣堂
- ・ 神奈川県立博物館 編 『横浜浮世絵と空とぶ絵師五雲亭貞秀』
1997年11月 神奈川県立博物館
- ・ 佐藤彰芳編 『地図でたどる横浜』 2025年9月 有隣堂